

大庄屋 旧斎藤家住宅半解体修理



完成写真 平成 18 年 4 月

施設に活用するための整備を行った。設計にあたっては文化資源としての価値を減じないように、復原考察に基づいた当初の部材と間取りを尊重しつつ、活用に必要な機能を付加した。

大庄屋の屋敷構えの一部と考えられるこの建物は、旧新発田藩領内に現存するものとしては唯一の物であり貴重である。茶の間の面の大きな柱や座敷などへの面皮柱の多様等から 18 世紀中期以降の頃に建築されたものと推測される。五十公野御茶屋や清水園住宅などと同様、藩の要人が立ち寄るための接客の施設であると推測される。

また建物西側の庭園は市内の清水園や五十公野御茶屋の庭園を作庭した縣宗知の作としての記録がある。

既存建物は経年により老朽箇所が随所に見受けられたため、上記のような文化的価値を将来に引継ぎ、コミュニティ



西側に広がる庭園



解体修理前の姿
平成 17 年 1 月

□工事の概要

屋根葺き材は茅の確保や維持管理が困難であるため、金属板に葺き替えることとした。但し、将来の茅屋根の復原に備えるため、小屋梁、桁、合掌は再利用し、当初の範囲を残すこととした。平成 17 年春より解体組立工事に入り、既存建物を軸組を残して半解体し、RCの基礎を設置した上に、土台を据えなおして軸部を組み立てた。やむをえず再利用しなかった部材の一部は附属の土蔵内部に保管し、後世に確認ができるようにした。工事は平成 18 年 3 月に竣工し、4 月 9 日に有機の里交流センターとして開場した。



正式な玄関となる式台



建物内部写真：御成の間



〒950-2042 新潟県西区坂井 700-1
TEL025-211-0010 FAX025-269-1134
E-mail: access01@g-sigma.co.jp
URL <http://www.g-sigma.co.jp/>